平成３０年度の研修テーマ
「問いをもって学び合い、まとめをする子ども」
～児童が解決したくなる課題作りと、学び合いのコーディネート～

授業者：猿子　栄子　教諭　（１年生）
単元名　　くらべて　よもう
教材名　　「じどう車くらべ」考察
本時のねらい　　クレーン車の「しごと」と「つくり」を理解することができる。

１　主な活動と児童の様子

〈つかむ段階〉

「課題：この絵のクレーン車のどこがおかしいか見つけよう。」

・教科書とは違うクレーン車の絵を見せ、課題を提示した。
・児童はクレーン車の絵に注目し、「どこがおかしいのか」を意欲的に探し、多くの児童が挙手して発表しようとしていた。
・「クレーン車に足がついていない。」「腕が小さい。」「腕が伸びていない。」「腕が曲がっている。」など、絵を指し示しながら、教科書の本文で述べられているクレーン車との違いを指摘することができた。

〈考えをもつ段階〉

「めあて：クレーン車の「しごと」と「つくり」をたしかめよう。」

・クレーン車の「つくり」と「しごと」を本文から探す活動をした。すぐに見つけてワークシートに書き出していた子が多くいたが、何を書けばいいか迷っている子もいた。そこで、すぐに、隣の子と相談してもよいことにした。
・隣の子と、自分が書き出した「つくり」「しごと」を説明し合っているペアもあったし、隣の子に、本文を指し示しながら、教えている子もいた。しかし、相談し合ったり、教え合ったりできなかったペアがいくつかあった。

〈考えを深める・広げる段階〉

・全員でクレーン車の「しごと」と「つくり」を全員で確認した。これまで学習したことを基に考え、「つくりは、『そのために』の後に書かれている」と指摘した子もいた。
・「クレーン車の足がないとだめなのかな。」と問いかけた時の児童の反応
　C　足がないとかたむいちゃうからです。
　C　ここ（本文を指して）に、「しゃたいがかたむかないように」と書いてあるから。
　C　足がないと荷物が重くてずれて倒れちゃうかもしれないからです。
　C　もし、足がないと荷物が重くて、重い荷物を支えられなくなって、バランスがとれなくなってしまいます。
・「細い腕だとだめなのかな。」と問いかけたときの児童の反応
　C　荷物が重すぎて、折れちゃうかもしれない。

C　太くないと、荷物が運べないからです。
C　文章には、「じょうぶなうで」と書いてある。腕が丈夫じゃなかったら、車が壊れてしまう。
・丈夫な腕としっかりした足が、「重いものをつり上げる仕事」をするクレーン車には、大切なつくりであることが確認できた。

〈まとめの段階〉

・クレーン車はおもいものをつり上げるしごとをするので、じょうぶなうでとしっかりしたあしがついています。
というように教師が文章を黒板に書き、児童もノートにまとめを書いた。

2　成果と課題（〇成果　●課題）

(1)　学習課題設定のための仕掛け：挿絵を置き換えるについて

〇　初めに教科書と違うクレーン車の挿絵を提示したことで、全員が挿絵に注目し、意欲的に課題に向かうことができた。間違いを探すということで楽しく学習することもでき、多くの児童が自分から進んで発言しようとしていた。児童の関心・意欲を高めるためには挿絵を置き換えることは有効であった。

〇　課題をつかむ段階だけでなく、考えを深める段階の話し合いの時にも、間違った絵と正しい絵を指しながら説明していた子がいた。本文から読み取ったことを発表する時にも、挿絵を使ってクレーン車の「つくり」について説明した子がいた。２枚の挿絵があることは、つくりについての理解を深める手助けとなった。

(2)　学び合いのコーディネート

隣の児童と相談する時間をとるについて

〇　本文を指し示しながら、「しごと」と「つくり」を説明している姿がたくさん見られた。１人ではワークシートに書き出せなかったが、隣の子に教えてもらったことで、「しごと」と「つくり」が分かった子もいた。早い段階で相談する時間にしたのは良かった。

●　それぞれに「しごと」と「つくり」は書いているが、互いに説明し合っていないペアがいくつかあった。相談する必要性がなかったこと、何をどう話せばよいのか分からなかったことなどが考えられる。話す型を示すなど説明の仕方を指導していく必要があった。今後も、ペアで説明し合う活動を継続していくことでペア活動に慣れさせ、グループでの話し合いへとつなげていきたい。

児童の答えに揺さぶりをかける問いかけをし理解を深めるについて

〇　揺さぶりの発問をしたことで、児童は「のびたりうごいたり」「じょうぶな」「かたむかないように」「しっかりした」などの本文の記述とも関連付けながら説明することができた。また、仕事をするために、必要なつくりになっていることも確認できた。

●　分からなかった児童が多かったのか、この場面では発言する児童が限られた。ここで、時間をとってペア活動をさせた方が相談する必要性が高り、２人で話している中で考えがまとまり発言できる児童も増えたのではないかと考える。

●　「クレーン車に足が必要な理由や細い腕ではだめな理由」について問うた後、「それぞれの証拠は本文の中にあるから探してみよう。」と言った方が、より本文の記述を根拠とした理由付けができたのではないかと考える。